



## 【8 月以降の活動予定他】

### ◎国際交流クッキング「そば打ち体験」

講師：「阿波の恵みの会」田村精二さん

日時：8 月 3 日（日） 13:00～15:00

場所：川島公民館 調理室・和室

### ◎鴨島阿波踊り（鴨島駅前中央通り）

日時：8 月 16 日（土） 17:00～

集合場所と時間：文化研修センター 16:00

YIA 会員と理事は 15:30 に集合

### ◎外国人お遍路ガイド

第 30 回 8 月 4 日（月） 10:00～11:30

第 31 回 8 月 23 日（土） 13:00～14:30

場所：文化研修センター

### ◎第 4 回理事会

日時：8 月 30 日（土） 15:00～16:00

場所：文化研修センター研修室 4

## ◆徳島県日本語弁論大会に 2 名出場

萩森 健治



徳島県日本語弁論大会が 7 月 20 日に開催され、YIA 日本語教室からは、タリク・タルハさん(パキスタン)、王桂芳さん(中国)の 2 名が出場しました。会場は「あわぎんホール」で、日本語教室からは、瀬尾会長をはじめ井口、岩谷、大塚、川村、田村、平田、細谷、三原、萩森、杉尾の 11 名の講師と、受講生の徐さん、エル君それに県議会議員の岡田顧問も応援に参加しました。

出場者は 14 名で、その内 10 名が鳴門教育大学や四国大学などの留学生でした。国別内訳はベトナム 4 名、中国 3 名、インド 2 名、パキスタン、ネパール、マダガスカル、台湾、タイ各 1 名で、昨年 8 名出場したインドネシア出身者はなぜか今回はいませんでした。

留学生の皆さんは、それぞれの文化や言葉の違いは

あるが、その違いを理解してお互いのつながりを育むこと、つなぐ架け橋となること、橋はすでにつ



ながっているなど異文化共生の体験を流ちょうな日本語で話してくれました。

タルハさんは「間違いから生まれる、希望のちから」と題して、難民として家族で来日してから多くの失敗を経験し、日本人の支援を受けながら挑戦することで希望が開けてきたと発表。

王さんは「日本で働いた 3 年間、挑戦、成長、そして感謝」と題して、縫製会社の仕事で感じた中国と日本での仕事の仕方の違い、失敗



の体験を通じて成長したことや仲間への感謝の気持ちを話しました。結果は、二人とも努力賞でした。タルハさんは、今後の努力が期待されていると前向きに受け止めていました。また、王さんは、3 年間で一番楽しかったとのことでした。

最優秀賞は中国出身の郭穎楠さん（在住 4 か月、鳴門教育大院）で、異文化共生への考えとこれまでの取り



組みについて、来日 4 か月とは思えないほど流ちょうな日本語で堂々と発表しました。私の自己採点でもダントツの 1 位でした。

YIA 日本語教室からは、2018 年にベトナムの



ホックさんが初出場して以来8年連続計 16 名が出場しています。留学生が多数出場する中で、皆さんは毎日仕事をしながらスピーチ原稿の作成や練習に励んでいて、その努力に本当に感動します。



### ◆第5回日本語スピーチコンテスト 瀬尾 規子

7月13日に山川公民館で、第5回吉野川市日本語スピーチコンテストを開催しました。来賓として徳島県多文化共生・人権課の山田課長様始め、TOPIA や生涯学習課の皆様にもご参加いただきました。発表者を含め52名が参加しました。

最初に「ベトナムの愉快的仲間たち」がショートスピーチと踊りを披露しました。休憩のあと、5名がスピーチを行いました。



佐々木建設で働いているプラデュープさん（ネパール）は、

仕事現場で「放して」と「話して」を勘違いしてしまったこと、介護施設で働いているエルウィンさん（インドネシア）は高齢者が話す阿波弁がわからず困ったこと、北岡プレコンで働いているソンさん（ベトナム）は、仕事もするけど恋愛もしたいという思いを語りました。

マルイソーイングで働いている王さん（中国）は、縫製で200着も失敗した時、仲間が助けてくれてチームワークで乗り切ったエピソードを感謝の気持ちを込めて語りました。

コンビニで働いているタルハさん（パキスタン）は、体調不良により欠席し萩森副会長が代読しました。コンビニでの失敗や運転免許の不合格体験などをとおして、心と心のつながりで世界は優しくなるという思いを伝えました。最後に、阿波日本語教室の藤本さんが講評をしました。

日本語スピーチコンテストも年々発表のレベルが上がってきました。これもひとえに、日ごろから指導いただいている日本語講師の皆様の尽力の賜物と心から感謝いたします。



### ◆スペイン巡礼の道を歩く 新見 真理子

5月7日に日本を出発。約40日かけてサンティアゴ・デ・コンポステーラまで「フランス人の道」を歩き、6月27日に帰国した。

巡礼路は「出会いの道」だと思った。カミーノを歩いている人はみんなサンティアゴ・デ・コンポステーラを目指してホタテ貝をリュックに付けて歩いている。お互い「ブエン・カミーノ」と声をかけ合う。様々な国から来ている心を通じ合い「同志」という感じだ。

アルベルゲで夕食を一緒に食べていてもすぐに打ち解けて話が盛り上がる。この時とばかりに「熊野古道」「四国八十八か所巡礼」の宣伝をした。サンティアゴまでの巡礼と熊野古道の二つの世界遺産の道を歩くと「DUAL PILGRIM」に認定される話をして共通巡礼手帳を見せたり、YAMAPの熊野古道の活動日記、3Dリプレイを再生して見せてあげたりした。何人かが「今年か来年に行く」と言ってくれた。

巡礼途中、何度か困ったことがあったが、そのたびに出会った誰かに助けられたり、アドバイスをもらったり、励まされたりして巡礼の目的を達成することができた。

